

# アジア地域における高齢化への政策強化－高齢化社会の課題と対応－

Strengthening of Policy on Aging in Asia-Challenges of Aging Societies and Policy Responses

(実施期間:2015年11月30日～12月11日)

## 1. 本研修の概要

アジア地域の多くの国々において、高齢化の進展は著しく、新たな健康課題となりつつある。わが国は世界有数の長寿国であり、高齢者ケアに関する制度や経験を有していることから、わが国の高齢者対策のこれまでの変遷や現在推進している地域包括ケアシステム等に関する講義・演習・フィールド視察を通して、わが国の知見をアジア各国で活用するための方策を検討することを目的とする。

## 2. 実施方法

国立保健医療科学院は国際協力事業団（JICA）と連携して、本研修を2014年度より実施している。研修の主会場は国立保健医療科学院であるが、一部の演習についてはJICA東京でも実施した。また、講義以外にも、シミュレーターを用いた高齢者疑似体験、地域包括ケアシステムへの取り組み事例を学ぶための川越市視察、施設ケアの現状を把握するための日本赤十字社レクロス広尾訪問などのプログラムを体系的に実施した。また、研修員の参加国での高齢者ケアの現状についても、プレゼンテーションを通じて情報交換を行った。

上記の全体プログラムを踏まえ、小グループによる課題解決に向けたディスカッションノートの作成と発表も組み込むことによって、ASEAN地域での高齢者ケア施策の向上につなげる取り組みを行った。

## 3. 参加者

本年度は、タイ（3名）、マレーシア（3名）、インドネシア（3名）、ベトナム（2名）、スリランカ（1名）、カンボジア（1名）、ミャンマー（1名）の7か国からの14名の研修員を得て、本研修を行った。研修員は、中央政府や地方政府にて高齢者ケアを担う中堅職員であり、医療・保健分野もしくは社会福祉分野の担当者であり、研修期間を通じて活発なディスカッションが行われた。



【於：本院 玄関ロビー】